

追悼

堀井秀治さんを偲んで

泉 清之

組織や規定関連の業務を担当されていた堀井秀治理事が平成22年1月12日に逝去されました。我々にとっては昨年10月に逝去された瀧澤さんに次ぐ悲報となりました。ここに生前のご活躍を偲びつつ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

堀井さんは1958年、東京大学工学部建築科卒業と同時に大林組に入社され、海外を含む数々の現場の経験を経て、1980年代後半に技術開発本部の部長という立場で全自動ビル建設システム（ABCS：2000年に第2回建設技術開発賞を受賞）の開発責任者として辣腕を発揮されました。私も情報システムの立場からこの開発に携わることとなり、このシステムの開発が堀井さんとの接点となりました。シンガポールで開催された建設のITに関わるシンポジウムに招待講演者として二人で出掛け、ABCSを紹介したのも楽しい思い出となっています。その後、建築生産本部部長室の室長に就任され、小生は同室の部長（兼務）として堀井さん直属の部下となり、堀井さんに多くのことを学ぶ機会を得ました。比較的無口で、部下に細かな指示を与えることはされませんでした。信念を持ち、筋は通すというタイプで、中には近寄りがたく威圧感を覚える人もいたようですが、身近に接すると根は優しく、無邪気なところも散見され、その笑顔はいつまでも忘れることができません。その後1991年に大林組のプレキャスト製作子会社であるショックベトン・ジャパンの社長として赴任され、サーツの設立に関わられたのはこの社長時代でした。設立準備時は定款の作成と登記を担当され、その後も組織規定委員長として、毎年提出が義務付けられている法務局と東京都への各種変更届けの書類作成を一手に引き受けていただきました。昨年既に病床にあった堀井さんに代わり、小生が書類作成を担当することとなりましたが、今まで全てお任せしていただけに、暗中模索状態で随分苦勞を強いられ、堀井さんの今までのご苦勞を身にしみて味あわされることとなりました。

こうした仕事面の話はさておき、堀井さんを語るに、お酒の話は抜きには語れません。堀井さんほど日本酒、それも純米吟醸酒を愛した人は少ないのではないのでしょうか。純米吟醸以外は酒ではないという持論をお持ちで、私の記憶では、最初のビール一杯は別として、吟醸純米酒以外はまず口にされることはなかったと思います。

最初の出会いで下戸の私は日本酒は苦手だとお断りすると「それは安くてまずい酒ばかりを飲んでいるからだ。」と

お叱りを受け、その後多少は酒が飲めるようになったのも堀井さんのお蔭です。

サーツでは伊藤理事に幹事をお願いして、酒好きの会員が集う「銘酒の会」を毎月開催していますが、お店をお願いして毎回異なる銘柄を数種全国から取り寄せていただき、純米吟醸の飲み比べができる貴重な会となっています。この会は堀井さんの提唱で始まったものですが、この他にも「朋酔会」と称する大林組の酒好きが毎月集う会も堀井さん提唱によるもので、既に250回を超え、当時現役だったメンバーも全員OBとなってしまいました。こうした会に提唱者である堀井さんの姿がないのは寂しい限りです。

しかし、この二つの会がいずれも継続することとなり、堀井さんもきっと冥界で喜んでおられることでしょう。

もともと堀井さんと日本酒との関わりは仙台のさる酒蔵の工事を担当されたときに始まるとお聞きしています。そこで酒の作り方を勉強され、これが高じて、全国新酒鑑評会での受賞酒に関する情報量は他の追随を許さないと豪語されるほどの情報と知識をお持ちだったようです。こうした情報をもとに「全国新酒鑑評会20世紀全記録」という本の編集をされ、また毎年「酒（酒を呑むならウマイ酒!）」という冊子を出版されていて、サーツでも多くの会員が毎年この冊子の出版を心待ちにされていたようです。

堀井さんが世話人として参画され、消費者の立場から見た吟醸酒文化の研究を目的とする「吟醸酒研究機構」のどなたかが堀井さんの後を継いで継続出版されることを祈るばかりです。

一昨年の夏だったと思いますが、私が住んでいる荻窪にある居酒屋、ここは多くの地酒を用意しているので有名な店ですが、ここである酒造会社の社長が来られる試飲のイベントがあり、堀井さんを誘って参加しました。驚いたことに、この時に招待されていた代表的なお客さんの多くが堀井さんをご存知だったのです。その人たちの中でも堀井さんが最長老ということで、サーツの総会などと同様、中締め音頭を取られました。ご自身ではあまりお話はされませんでした。この世界での堀井さんの顔の広さを改めて知る機会となった次第です。

多くの恩恵を受けながらも恩返しらしきことはできずじまいになってしまったことが誠に残念です。堀井さん、長い間ご苦勞様でした。また、大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。どうぞ安らかにお眠りください。

合掌